

レガシー編

オリンピック・パラリンピックにより何を遺すか

ウィンタースポーツを楽しむ文化を次世代へ

ウィンタースポーツ人口の拡大

ウィンタースポーツの裾野を広げ、日常生活の延長線上にオリンピック・パラリンピックがあるという文化を創出します。

身近で気軽な遊びを通して、だれもが冬にからだを動かし、健康づくりや仲間づくりなど多様な楽しみを持つことで冬の生活を豊かなものにします。

- 公園などで気軽にウィンタースポーツができる環境づくり
- アスリートとの交流を含めたウィンタースポーツの体験機会を提供
- 競技人口の増加につながるアスリート等による裾野拡大の取組み
- 「観るスポーツ」の進化により、市民のウィンタースポーツへの関わり方を変える取組み
- 学校や地域でのウィンタースポーツ教育の充実による裾野拡大
- 用具レンタルやリユースによる裾野拡大



オリンピック・パラリンピックムーブメントの推進

オリンピックの輝かしい歴史や価値を後世に伝え、オリンピック・パラリンピックを通じて、人類がともに栄え、文化を高め、世界平和の実現に貢献します。

- ウインタースポーツミュージアムのオリンピックミュージアムへのリニューアル
- オリンピック・パラリンピック教育の充実
- 国際芸術祭などの文化イベントとの連携による文化プログラムの充実
- 先住民族への理解促進



オリンピック・パラリンピックにより何を遺すか

「パラリンピック」の更なる理解へ

パラリンピックの開催を契機に、ノーマライゼーションの理念を広めていきます。
また、障がいの有無を問わないインクルーシブな大会を開催していきます。
さらに、オリンピックとパラリンピックの融合により、互いに手を携え、誰もが活躍できる共生社会の実現につなげていきます。

- パラリンピック教育の推進
- 障がい者スポーツの裾野の拡大、指導者育成
- 選手と子どもたちの交流や障がい者スポーツ大会へのボランティア参加の促進
- 障がい者スポーツを気軽に体験できる機会の創出
- 大会の積極的誘致



オリンピック・パラリンピックにより何を遺すか

世界に誇るウィンタースポーツ王国「北海道」へ

アスリート育成のための環境整備

夏場の練習環境の整備、合宿施設の整備などにより、アジアを始めとする世界のアスリートへの支援を行い、ウィンタースポーツにおける国際競技力の向上に貢献します。

- ナショナルトレーニングセンターの指定
- アジアのウィンタースポーツアスリートの受入
- 民間企業による選手の雇用、スポンサーの獲得
- アスリートのセカンドキャリア支援



どさんこアスリート育成

大会の成功に不可欠であるメダリストを北海道から生み出すため、アスリートの育成を支援します。

- スケルトン、バイアスロン、カーリング等の冬季競技を中心に小中学生からタレントアスリートの発掘
- 夏季競技も含めた交流による選手発掘

また、冬季競技の盛んな道内市町村と札幌市が連携し、幼少期（市町村）から青年期（札幌市）までの一貫した育成システムを整えることにより、冬季スポーツの振興を図っていきます。

さらに、JOCが実施するアスナビ事業等とも連携しながら、選手への支援の多様化を進めていきます。



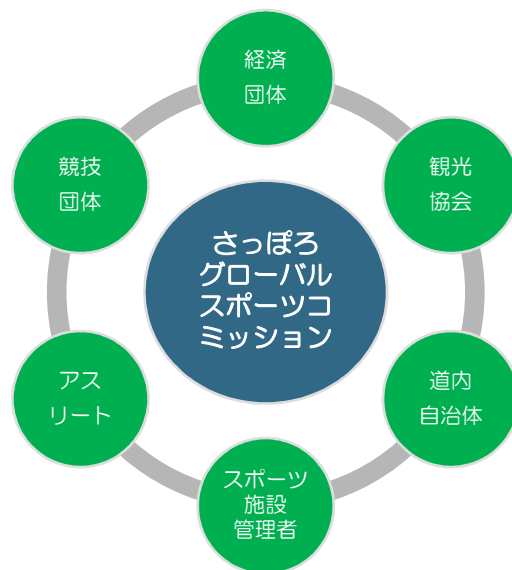
■ ウィンタースポーツで北海道を活性化

北海道の良質な雪、豊かな自然を活かし、アジアにおけるウィンタースポーツの拠点としてのブランドを高め、「ウィンタースポーツ王国北海道」として、オール北海道で、ウィンタースポーツによる北海道の活性化を図ります。

- 「さっぽろグローバルスポーツコミッション」※の設立（平成28年3月設立）
- 国際大会の継続的な招致、開催
- スポーツパークを活用した合宿誘致
- スキーリゾート北海道としての世界への発信
- ウィンタースポーツツーリズムの推進

※ スポーツコミッション

地方自治体や競技団体、観光団体、企業等が連携し、戦略的にスポーツ大会誘致や運営支援等を行う専門組織



■ 北海道の魅力を世界に

練習会場としての利用

各国の選手団が道内各地の練習会場を利用することにより、世界のトップアスリートと道民の交流が生まれるほか、観光地としての魅力を世界にPRします。

北海道全体で取り組むスポーツ合宿誘致

冬季競技に限らず夏季競技も含めたスポーツ競技の合宿を、全道各地で受入れ、おもてなしにより北海道の魅力をPRしていきます。

関連施設整備への道産材料の積極的使用

大会関連施設の整備に道産材料を積極的に使用することにより、道内の林業や製造業などの活性化につなげます。

北海道の食文化の世界への発信

オリンピック・パラリンピックを通して北海道の食の文化が世界から注目されることにより、道産食材の需要が高まり、道内の農業や漁業などの一次産業の活性化につなげます。



オリンピック・パラリンピックにより何を遺すか

大会後も市民に利用される稼働率の高い施設整備

競技施設は、本設と仮設を効率的に組み合わせることに加え、イベントや展示場などにも転用が可能な多目的化を図るなど、コストを抑え、多くの市民や観光客に利用される稼働率の高い施設整備を行います。

競技種目	競技会場	形態	後利用
アルペン	ニセコ	既存改修	スキーコースとして引き続き利用を想定
クロスカントリー	白旗山競技場	既存改修	クロスカントリーコースとして引き続き利用を想定
ジャンプ（ラージ）	大倉山ジャンプ競技場	既存改修	ジャンプ競技場として引き続き利用を想定
ジャンプ（ノーマル）	宮の森ジャンプ競技場	既存改修	ジャンプ競技場として引き続き利用を想定
ノルディック複合	円山総合運動場	仮設	陸上競技場、野球場、テニスコートとしての利用を想定
フリースタイル・スノーボード	サッポロティネスキー場 札幌国際スキー場 さっぽろばんけいスキー場	既存改修	スキーコースとして利用するが、コース構築物については、大会後は撤去の想定
スピードスケート	真駒内公園屋外競技場	建替	夏期はスポーツ・イベント会場、冬期はスピード、フィギュア、ショートトラック競技場としての利用を想定
	明治北海道十勝オーバル	既存改修	通年でのスケートリンクとしての利用を想定
フィギュアスケート・ショートトラック	真駒内公園屋内競技場	建替	スケートのほか、体育館やイベントホールなど多目的利用を想定
アイスホッケー（男子）	スポーツ交流施設コミュニティドーム（つどむ）	仮設	大会時はアイスマットを敷くが、大会後は撤去し、スポーツ、イベントホールとしての利用を想定
アイスホッケー（女子）	月寒体育館	建替	通年のスケートリンクとしての利用を想定
ボブスレー・スkeleton・リュージュ	サッポロティネ	建替	NTCとしての指定を受け、スキー場と一体化した施設として、競技者だけではなく、市民や観光客も利用できる施設を想定
カーリング	北海きたえーる	仮設	大会時はアイスマットを敷くが、大会後は撤去し、体育館、イベントホールとしての利用を想定
バイアスロン	西岡バイアスロン競技場	既存改修	バイアスロン競技場として引き続き利用を想定
選手村	札幌ドーム隣接地	新設	宿泊施設や体育施設等の一部施設を有効活用し、宿泊機能やスポーツのトレーニング施設としての利用を想定
メディアセンター	北海道立産業共進会場跡地	新設	イベントの開催が可能な展示場等や商業施設としての利用を想定

仮設施設の有効利用

大会で使用した仮設施設を移築あるいは部分的な再利用を行い、オリンピック・パラリンピックで使用したという記憶を残すとともに再利用による有効活用を図ります。

- レガシーとして道内各地の競技場等に活用
- 災害時の利用等の有効活用

北の創造都市「さっぽろ」に向けて

先駆的なまちづくりモデルを世界に発信

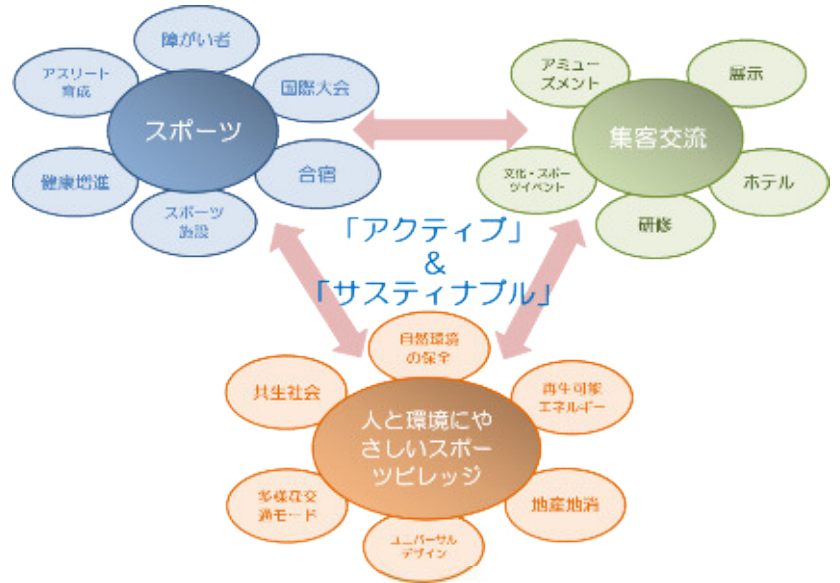
○選手村 ～札幌ドーム周辺に人と環境にやさしいスポーツビレッジを実現～

札幌ドームに隣接した選手村は、新たなオリンピックレガシーの象徴空間として、スポーツと集客機能が共存する最先端の環境技術を導入した「人と環境にやさしいスポーツビレッジ」として世界に発信します。

札幌ドームの魅力をさらに高める賑わいの空間へ

周辺の自然環境やメモリアルパークを活かし障がい者スポーツセンターやスポーツ科学の研究機関などのスポーツの拠点づくり

障がい者や高齢者を含めたすべての人が健康で豊かな暮らしを体験できるスポーツビレッジに



選手村後利用イメージ

